

平成21年7月24日



札幌市保健福祉局
保健福祉部障がい福祉課様

北海道失語症友の会「北の会」
会長 谷川弘治

拝啓

時下ますますご清祥のことと存知お喜び申し上げます。

さて、今日お手紙を差し上げましたのは、来る総選挙に於いて「投票」することに関してです。

従来、選挙があるたびに、文鎖があるかどうかで悩んでいます。私たち脳卒中で倒れた者は、どこか僅か乍らも不自由な思いでいます。まして、私たちのように片麻痺の者は、喋ることも、歩くことも、ままならないのです。

しかしそうは言っても、選挙には行って、投票しなければならぬと、思っています。歩くことが不自由でも、喋ることが不自由でも、それは続けなければならないと思っています。それが国民の義務だからなんです。

それで提案なのですが、全区に文鎖を置くこと、板で何らかの仮歩道橋には（学校・施設など）手すりを設けることです。

これに関して、ご返事を頂きたいようお願い申し上げます。

この回答は、いま全国的に取り組んでいる訳で、私どもの上部団体の連合会にも知らせなければいけないからです。

いろいろとご面倒なことをお願いして申し分けなく思っております。よろしくお願い致します。

敬具